

IS (インフィニット・
ストラトス)
『mother & sister's
complex』

CAGED- BIRD

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

姉はヨダレで殺された・・・そして私は鼻水で殺された

神によってころされた主人公が今ここにISの世界に転

生する

目次

第零話

プロロクグ A lady can

ie but once. | 4 d l

第一話 They obey tho

se who tore them o

ut of the soil.

9

第二話 Mankind is a

species that conte

nds, envies other

s, hates others,

and cannibalizes.

ステータス The more you

shed tears, the s

trouger you can b

e. | 22

第三話 Her skirt can

not be blown by th

e wind, no matter

how strong the wi

nd might be. | 25

第四話 I learned of

a curse, and coul

dn't sleep that ni

ght , because I wa

s scared . | 35

ワタシノカンガエタサイキヨウノアイエ

ス① | 44

ワタシノカンガエタサイキヨウノアイエ

ス② | 48

第五話 The underwear

a girl wears is

aid to influence t

he outcome of her

love . | 53

第零話

プロローグ；A lady can die but once.

【少女は一度だけ死ぬことができる】

|| 《転生フラグですね？わかります。》

第一話；They obey those who tore them out
of the soil.

【彼らはひっこぬいた者に従う】

|| 《私はひろつてくれた人について行きます。》

第二話；Mankind is a species that contends
, envies others, hates others, and cannibalizes.

【人類は、競い、ねたみ、憎んで、その身を喰いあうものだ】

|| 《ママがいればそれでいいよ？》

ステータス；The more you shed tears, the stronger you can be.

【涙の数だけ強くなれます】

||《神様からのチートでわっしょい！》

第三話；Her skirt cannot be blown by the wind might be.

【彼女のスカートはどんなに強い風が吹いてもめくれない】

||《変態にみせるものなんて何もありません。》

第四話；I learned of a curse, and couldn't sleep that night, because I was scared.

【呪の言葉を知った夜は恐くて眠れませんでした】

||《おおかーさんがいないと私は授業中眠ることさえできません。》

第五話；The underwear a girl wears is said

to influence the outcome of her love.

【彼女の恋の行方はパンツが握ってるそうなの。】

||《好きなら好きなりに攻めればいいのに。既成事実をつくつちやばいいのになんでやらないんだろ?》

プロロ〜グ A lady can die but
once.

〜
●
○
▽
side
〜
姉が死にました。

父、母と一緒に泣いたのを覚えている。

死因はよくわからない。原因も不明。遺体は全身の穴という穴から血をだしていた。わかっているのはそれだけ。あと、姉の友人さん（おまけ）も同じようにいなくなってしまった。こちらはどうせもよいが。おまけの分際でお姉ちゃんの横にいた罰だと思っってしまった反省した。

犯人もわからずじまい。ニュースにもとりあげられ、警察のほうでも大規模な捜査がおこなわれた。・・・しかしなにもわからず。

そして、事件から現在。5年がたった。

「でっ..」

目の前に半裸で土下座している老けているように老けてない若いように若くない老人のような若者のようでもある自称神がいます。

「すみません、あなたを殺しました」

・・・
なんかふざけたこと言っていないかな？

「はっ..」

・・・
まあ、おちつけ・・・とりあえずさきをうながさないと

「いや、むr「はっ！」ギヤアアアアアア
 しばらく!!!!!!!」

しばらく!お待ちください

「で、あんた・・・まちがえたつてどういふことかな?」

「ハアハア・・・えつと、あなたのお姉さんの場合は私のよだれ、あなたの場合は鼻水ですぬ・・・最近鼻炎で・・・グハアッ!」

「そんな!そんな理由で姉と私が!!!」

しばらくお待ちください

「ふう・・・そう、要約すると、私の姉とおまけは他の世界で頑張ってるわけね?」

・・・
 グスン

「はい、そうです」

「で、私も一緒にお姉ちゃんの世界・・・っていうのも無理なわけね?」

・・・
 さびしくなんか・・・さびしいな

「はい、その通りです」

「で、私の行く世界はIS、インフィニット・ストラトスの世界なのね?」

「はい・・・はい!その通りです」

第一話 They obey those who

l. tore them out of the soil

↳ side

●○ 樹里↳

「ここらへんでいいだろ」

「そうね・・・じゃあ、樹里？お父さんとお母さん、ちよつといくところあるからここでおとなしく待っていてね？すぐに戻って来るから」

「うん・・・」

「ほらっ、いくぞ」

ぼーつと空を見てた。

何も考えることもできず、ただただ自分の両親が自分のもとに帰ってきてくれることを待っていた。

何時間たつても何日たつても待ち続けた。

誰も来てはくれなかったが。

そうした中で気付いた。

気付いてしまった。

いや、最初からわかっていたのかもしれない。

捨てられたのだと。

気のせいだと思いたくもなかったが、そうした現実を消し去ることは私にはできなかつた。

転生してなにもなく過ごしていけると思ってたんだけど。

生まれ変わった家は不幸なことに貧乏だった。

・・・私を育てられなくらい。

不思議と涙は出てこなかった。

原作ぐらいいまでは生きていけると思っていたんだけど。

ここで終わりなのかと思つてもみた。

ここは一応森の中だが人は通る。

だが幽霊だとかそういう類いのものだと思われたのか話しかけようとしても逃げられる。

追いかけてようにも生まれつき足がそんなに強くなかったので、歩けはするが走ることなどではしない。

それに、数歩あるくだけで体力の限界がくる。

大きな声をだすのも苦手だ。

助けを呼ぶこともできないのは最初からわかっていた。

歩くだけで疲れるのだからじつとその場にいたほうがいい。

ただ、そんな中でさえ思ってしまうことが一つ・・・

お腹すいたな。

＼ side END 〉

＼ side 三人称 〉

その日、篠ノ之東は珍しいものはないか散歩していた。

そして、道端に落ちていたかわいらしい人形らしきものを見つけた。

「んく奇麗だねく洗つたら箒ちゃんのお土産になるかな？」

【注；落ちていたものを妹のお土産にしないであげてください】

すると、人形らしきものが東のほうに顔を向けた。

「うわつ、東さんびつくりしたな〜！君だれなの？」

「じゆり」

「じゆりちゃんか〜♪そうか〜♪うん、じゃあね〜♪」

篠ノ之東は笑顔で歩きだそうとした。

「じゆりちゃん？はなしてくれるかな？」

服の裾を人形らしきものがつかんてる。

「・・・」

「んく〜？えつと、一緒にくるかい？」

こくり、人形らしきものが首を縦にふつた

「じゃあ、君のお母さんになってあげよう♪せーの！」

「？」

「おかあさん、マミー、ママ、母上、奥様？わかるかい？東さんが君の母になってあげる
といつてるのだよ〜♪」

「・・・ママ〜」

…… こうして、樹里は篠ノ之束に拾われ篠ノ之樹里となった

【やり取りの不都合は受け付けない！】

（ s i d e E N D ）

第二話 Mankind is a species

that contends , envies o-
thers , hates others , and
cannibalizes .

（side 樹里）

篠ノ之束もとい、ママの娘になって次の日、織班千冬さんに紹介されていた

「束……貴様、どこの店からとってきたんだ!!」

あれ？まず人として思われてない？

「ちーちゃん？きーちゃんはね？女の子、人間だよ？ちなみに私の娘なのだ★」

そうなのだ。昨日帰ってきてなにやらやっていると思っていたら、戸籍的にも娘になつていた。苗字もしのののになり、しのののじゅりになつたのだ！

「なっ!?……すまない、はじめまして。私の名前は織班千冬という」

あれ？人だつたらどこから拾ってきたとか聞かないのかな？

「あの……えつと……その」

「落ち着け、深呼吸しろ」

「!?この人の目、こわい ……ママ助けて

千冬(?!)

「ちーちゃん? きーちゃんを泣かせちゃ駄目だよ?」

ママに抱きしめてもらえた……

「なっ!? 私はないもしてないぞ!?」

「ちーちゃん? その目つきだと思うよ?」

「これは生まれつきだ!」

「ほらっ♪ きーちゃん、こわくないから☆」

「え…… あ、うん…… しのののじゅり5しゃい…… 5さいです!」

あう、かんだ……

「よくできました♪」 なでなで

ママになでてもらえた♪ あふあふ♪

「そんなことよりも」 そんなことよりってなんだい!」

……すまない、今日も『あれ』の実験をやるんじゃないのか?」

「うん♪やるよ♪」

「ママ、あれってなにかな？」

「ふふん♪見てのお楽しみだよ♪」

「なっ!?!いいのかわか?見せても」

「いいんだよ!いいんだよ!この天才東様の娘だもん♪きつと理解できると思うよ♪」
「……お前がいいならそれでいいのだが」

「()……なに？」

いつもいる場所より奥の方につれてこられたのだがよくわからないところなのだ
周りを見渡すが、何かゴチャゴチャと散乱して

黒い布切れまで散乱している。食べかけのお菓子とかもなんかあるし……

「天才東様の秘密実験室♪」

じゃじゃくん、と効果音がでそうな声でそう言っていたが……

まあ、よくわからないので聞いてみる

「ママ?ここで何作ってるの?」

「それはね?……皆で宇宙へいこうぜ☆マシ〜ンだよ♪」

「え?」

よくわからないので隣のオリムラっていう人をじっと見つめてみる

「安心しろ、私も分らないから」

うん、全く安心できるところがないね。

おかーさんは胸をはって、よくわからないけど満足気だったのでそれでいいのかもしれない。まあ……前世の知識的にはISのことなんだろうけども。

「ん〜と?これってロボット?」

「おおー!おしいぞ★これはね……………」

ためますね。さすがはおかーんです。

「インフィニット・ストラトス☆略して、ISだよ★」

おかーさん、普通それだけじゃわからないよ?

「まあ、あれだ。ロボットではないがパワードスーツみたいなものだ。わかるか?」

うん、普通の5歳の子供だったら分らないと思いますよ?

「ママ!すごいんだね!」

「えっへん♪」

すごい誇らしげだよ……

(い)そ(い)そ

ん?

「そしてこれが設計図だけどわかるかな？わかるよね？すごいでしょ♪」

「おおーこうなってるんだ。前世のままじゃ絶対わからなかったけど知識チートってすごいね。ISのコアについても理解できる。……けど、あれ？ここって…

「ママ？ここなんだけど」

「ん？どうしたのかな？」

「あのね？あのね？つなぐとこ間違えてないかな？」

「そんなことないと思うんだけどな？……あれ？」

「ね？ここをこっちにつなげてここにつなげてたのをこっちにつなげたらいいと思うんだけど……間違ってるかな？」

なぜこんな間違いをしてたんだろ？まあ、どうせ後で気づいただろうが。

「!?すつくごい！さすがは東さんの娘だね★きーちゃん！さあ、ハグハグしよう！」

「!?あふへみゆく／＼また抱きしめてもらえたく♪今日もいい日だなあ♪」

「……で、だ。樹里、もしかして性能に問題あったりしたのか？」

「あふあ、にや？えつと、腕とか足とか動かすのにすごい力を入れないといけなくなつてたはずですけど、ここをつなげ直してたら前よりも楽になると思いますよ？」

「……そして、東。言い残すことは？」

「ちよつ！きーちゃん!?なんで言っちゃうの！……ちーちゃんごめんつてば！」

なにやらバタバタしてありますがそんなことはいいでしよう。そんなことより私、ここで気のきいたことの一つも言えないなんて駄目な子ですね。えつと、もうどうでもいいです。ごめんなさい。私自身がどうでもいい存在なんで私なんかを原因でけんかしないでください。私なんてゴミクスですね。ごめんなさい。いい子じゃなくてごめんなさい。ごめんなさい。なんで私ここに存在しているのかな？自分勝手にごめんなさい。ごめんなさい。余計なこと言つて、死んだほうがいいかな？ごめんなさい。愚図で駄目な子でごめんなさいワガママ言つてごめんなさい。こんな娘でごめんなさい。私が生まれてこなければ誰にも迷惑をかけることなんてなかったのに。私はすごく嫌な子だよ。ホントに死んだほうがいいのかな？うん、そうだよ。こんな駄目な役立たず、必要ないよね？」

バチンツ

え？

いつのまにか二人とも黙つてこわいです。

「きーちゃん？なんでそんなこというのかな？かな？」

ママ、恐いです。あと、声にでてたんですね。でも、間違つてないですよ？

「だって、私が、私が余計なことを言つたせいでオリムラさんに怒られて、私なんていなければ！私なんて！わ「そんなことないよ」たs……え？」

「そんなことないよ? きーちゃんのこと私は必要だよ? いて欲しいよ?」

また抱きしめてもらえました。ホントに幸せです。

「だから死んだほうがいいなんていわないでね?」

ホントに今日はいいい日です……………

↳ side END

「…………寝たな」

「ちーちゃん、しーだよ? あっちいこう?」

「ああ。」

↳ side 3人称

「自分で泣いてたことさえ気づいていなかったな」

「うん、そうだね」

千冬は家族に捨てられ、東は世界に関心を失った。そして、樹里は家族に捨てられ自分を否定していた。

「…………悲しいね…………私達は…………」

「そうだな…………」

千冬は力、東は頭脳。樹里も頭脳という才能を持っているのだろうが、それだけなの
に。

世界はなんでこんなに世界は、
どうして私達に酷いのだろうか……
「ね、この子は私達が……」

〈 s i d e E N D 〉

ステータス The more you shed tears, the stronger you can be.

名前； ●○ 樹里（じゅり） ↓篠ノ之 樹里

原作開始時の特徴とか・・・

4 外見・身長138cm（鉄腕アトムと同じ身長）、スリーサイズB76/W58/H7

長髪ストレート（白髪）、ヴィクトリカ・ド・ブロワの顔（GOSICKより）

一人称；私

国籍；不明

年齢；12

性格；きびしがりや、人見知り、シスコン（殺人鬼なんて知らない）、マザコン（重症）

好き；篠ノ之束、甘いもの、かわいいもの、整理整頓

嫌い；篠ノ之束以外の人（苦手）、苦いもの、おぼけ、カレーライス、虫、汚いもの、篠ノ之箒、織班一夏

弱点；花粉症

父と母は日本人だけど、5歳の時に捨てられる。その後、束に興味本位で拾われる。名前は刺繍されていたが、苗字は書いてなかったため篠ノ之の性を使わせてもらう、もとい束の子供として育てられる。そして、束に依存する。

ISの研究を手伝いつつ、自分のISも開発する（詳細は別に）

神様特典

① 転生後の姉と同じ顔（GOSICKのヴィクトリカ）

・この願いを願った時点で転生後の姉の顔は知らない。

・ブラコンなので姉とのつながりが欲しかった。

・転生後姉の趣味が可愛い系なのがちよつとびっくりだった。

↓マイナス補正；耐久値マイナス補正（けがをしやすい、風邪等になりやすい）

② 知能並びに知識等の頭脳チート

・コアの精製もできるようになります。これによってチート開始です。

↓マイナス補正；身体能力低下、および身体能力上制限（小学生低学年程度）

③ 記憶維持

・前世の記憶をそのまま引き継ぎ、かつ絶対記憶能力者です。
↓マイナス補正；肉体的成長の制限（12歳程度から止まる）

第三話 Her skirt cannot be

blown by the wind, no matter how strong the wind might be.

いろいろ、ホントにいろいろあって、だいたい7年後のある日のこと。

ある日、ママがなにやら言ってきた。

「学園に行ってきた?」

「やだ」

何をふざけたことを言っているのだから?まず、私は12歳なんだよ?IS学園(高校)?年上の中に入れと?いやだよそんなの。それに、あれだよね?オリムラなんとかさんっていう人の弟のあの変態がなんかISを動かしたからIS学園に通うとかいう話で、ママの・・・認めたくもないが妹の刀振り回す殺人鬼も通うっていう話を聞いたん

「ただ、もしかしてママに嫌われるようなことしたのかな？」

「行つてきなさい。嫌つてないから。ね？ほらっ、泣かないの！」

「ママと離れたくないんだもん!!」グスン

これは本心。転生したわけだが、もうそんなことはどうでもよく、ただママと一緒にいたかった。

「今年は何ちゃんといつくくんが入学するからね。きーちゃんも一緒に通つちやいなよ」

「それがいやなんだつてば！」

「もーしかたないな」

あきらめてくれたのかな？今日もぎゅつとしてもらいたいな〜♪
と、思つていたら首筋に何かをあてられ・・・

次に気付いた時は、どこかの教室に座らせられていた。

……………え？

しばらくの間、ぼけーつとしてると、人がたくさん入ってきた。

みんな遠巻きにこつちをみながらこそそこそ何か喋ってる。

なにこれ、こわいよ。ママ、助けてよ。(; ω ;) ウウウ

しばらくすると、

「みなさん、入学おめでとうございませす」

そう言いながら眼鏡をかけた女性が入ってきた。

「私の名前は山田真耶。このクラスの副担任です。皆さん、これから三年間よろしくお願ひしますね。」

だいたいこんな感じのことを言ってたと思う。でも、知らないよそんなこと。そんなことより私はなんでこんなところにいるんですか？そして、一年間もよろしくやりたくないです。帰れですよ！

そのあと、あの変態が副担任の人の胸を凝視しつづけ周りをみわたし、おかーさんの妹のほ、ほ、ほ何とかって言う人の胸まで凝視し始め、副担任つていつてた人（以下眼鏡）が自己紹介を促していたのにもかかわらずに、ガン無視をしていた。

「織斑君、織斑一夏君！」

「はい？」

あの変態……本気で聞いてなかったんですね

「アから始まつて今才なんだよね。自己紹介お願いできるかな？織斑君の番なんだけど……だ、ダメかな？」

眼鏡が上目づかい＋涙目で変態に迫る。……そんなことしたら変態が喜ぶだけですよ？あつ、それが狙いなんですね？そうなんですね？あつ、なんか自己紹介するみたいだ。

「えー……えつと、織斑一夏です。よろしくお願いします。」

そして、そこで自己紹介が終わる。……まわりにいる人間達はすかさずつつこみを入れている。

別に変態の紹介なんて知ったこっちゃない。なにかよくわからないけど、変態がはあはあしてるし。たしかに女子に囲まれてるとはいえ、一応学園なのだから学園内で発情するのはやめて欲しい。

「以上ですー！」

なにやらかっこつけていいやがりました。まわりの人間がこけてますね。しりませんが。

ゴツン！

「いっつう……げっ！千冬姉っ!？」

ゴツン!!

「学校では織班先生だ！」

「先生。もう会議は終わられたんですか？」

会議つて……絶対あの状態とか変態とか変態の話でしょ

「あー、山田君。クラスへのあいさつを押しつけてすまなかつたな。」

ほんとだよ。全く、これがおわったら、おかーさんの所に返してもらおう、そうしよう！

「諸君！私が担任の織班千冬だ！君たち新人を一年で使いものにするのが仕事だ。」

名も知らないモブ達 「」「」「きやゝ（ry）」

「千冬様よ！本物の千冬様よ！」

「私、お姉さまにあこがれてこの学園にきたんです！北九州から！」

「担任が眼鏡かと思つてしにそうになりました！」

じゃあ、私はあこがれても名前もまともに覚えてないから帰つていいですか？

「毎年これだけ馬鹿ものがあつまるものだ」

このクラスだけじゃないですか？馬鹿じゃないので帰つていいですか？

「おねーさま〜♪もつとしかつてののしつて〜♡」

「でも、ときには優しくして〜♥」

「そして、つけ上がらないように調教して〜★」

「ペットにしてください◆」

「で、あいさつもまともにはできないのか？おまえは」

で、ここから千冬の弟だつてばれてからのまたきやーきやーなつてゝの

「しくずくかに！お前たちにはこれから半年でISの基礎知識を学んでもらう」

もう、覚えてますけど？基礎どころか応用まで。コア作れますよ？帰っていいですか？

「その後実習だが、基本動作は半月で体に覚えさせろ」

専用機もつてるからね？動かせるのは当たり前ですよ？帰っていいよね？学ぶものないよ？帰っていいですか？

「いいか？いいなら返事をしろ！よくなくても返事をしろ！」

「はいっ！」

あ、もちろん私は返事しませんでしたよ？よくなくても返事っていわれてもよくないんですから。あと、あの変態も返事してませんでした。いつまでほんやりしてるんでしょうか？

眼鏡がなにかしやべってるけど、(ごそごそ)あ、あつた

びこびこびこびこ

ばしんっ！

「へう!?!」いたい・・・

「担任の目の前でゲームとはいい度胸だ」

だつてひまなんだもん。帰っていいですか？

「じゃあ、退学でいいので帰っていいですか？」

「却下だ！篠ノ之樹里！」

名前でまたざわざわ。別にフルネームで呼ばなくてもいいんじゃないかな？そして突き刺さる視線。

「えー、なんで私ここにいますか？」

「あいつが学校ぐらい通つとくべきだつて言つてたぞ」

「えー、私何も学ぶことないですよ！」

いや、ホントに。帰っていいですか？

「口答えは許さん！ゲーム機は没収だ！」

「だめですよ？人の専用機を教師が没収する権利があるんですか？」

「なっ!?!じゃあ、せめて授業中にやるな！」

周りですごいざわついているけど、するーでいいでしょう。どうせ学校はやめるのだし、関係のない人たちですか（ばしんつ!!）にや!?!

「この学園をやめることは許さん！3年間ちゃんと通つてもらおう！欠席でもしてみろ、

留年させてでもこの学校にいさせてやるからな！覚悟しておけ！それと制服はどうした？」

やめさせて下さいよ！それに……

「心の中をよまないでください！気づいたらここにいたんでこの服しか持つてないし持ち物も服に入れてたり元からつけてた物しかないんです！それにこの服も、つていうか持ち物ほとんどがISの待機状態ですね？むしろ全部外したら裸になりますよ？それとも、脱がせたいんですか？こんな小さい女の子の裸がみたいと？そうなんです！そうなんですよね？さすが変態の姉でs（ばしんっ！）しゅにやつ！」

痛いです。出席簿をこの近距離で投げないでください！

「あ、あの先生。樹里ちゃんつて、もしかして篠ノ之博士の関係者なのですか？」

モブの一人がおずおずと挙手して年増に質問する。

……まあ、篠ノ之なんて名字はそうそうないし、いつかはバレるのはわかってたけど、今ですか。そして名前読みですか？そしてなぜにちゃん付けですか？

「ああ、篠ノ之はヤツ——篠ノ之束の娘だ」

ママのことをヤツつてよばないでください。そしてもうそろそろ帰っていいですか？

「ええええーっ！す、すごい！このクラス有名人の身内が二人もいる！というか娘!?あ

の人結婚してたの!？」

してません。ありえませんが、もし近づく男がいたら吹き飛ばしますよ？

「ねえねえつ、篠ノ之博士つてどんな人!? やっぱり天才なの!？」

あたりまえです。ママはすごい人なんです! わかったなら私を帰らせろ!

「樹里ちゃんも天才だったりする!?! 今度 I S の操縦教えてよっ」

天才ですが、いやです。年増に習ってください。そしてちゃん付けやめてください。そしておうちに帰してください。

授業中だというのに私の周りに女子がわらわらと集まる。

全く、迷惑です。べつ、別にいきなり囲まれて恐くなったわけじゃないんだからね!

こわくなんてなくいさ! (ガクガクブルブル)

「はあく……お前ら席につけ〜! そんなんでもまだ 12 の餓鬼なんだから… (ry)」

注意する理由がおかしいですよ? ……助かりましたが。しかし、大人しく席に戻ってくれましたが視線が痛いんです。特に、変態とか殺人鬼の。

「お前は……まああいつの娘だしいろいろとんではわかるがこの学園では自重しろ。わかつたな?」

「やです (ばしんっ!) はう!？」

角!?! 角で叩きましたか!?! 痛いですよ!! そしてとんでるって失礼ですよ!?!

「わかったな？」

「……はい」

どうしてこうなったんだろ？

ああ、クラスメートの視線が痛い……そして、怖い。帰りたい。

こうして、私の学園生活（監獄生活）が始まった。
そして、ただひたすらに帰りたい、と願った。

第四話

I learned of a curse
, and couldn't sleep that
night, because I was
scared.

なぜか入学初日からあつた一・二時間目のIS基礎理論の授業を終えた。

あの変態が全くわからないとかおかしなことを言っていたけど、あんなの小学生でもわかるんじゃないだろうか？いつも女の胸ばっかり見てるからそうなるんだ！帰りたい……

そして休み時間。

皆の視線は変態の方に向いてるわけではなく、むしろさっきの紹介のせいでこっちに視線が集まつてる感じだ。……ぜったいに目を合わせるものか！合わせたら力負けする自信がある！そして帰りたい！

あの年増の投下した私の個人情報という名の爆弾はナタームだったらしく決して消

えてはくれないらしい。

「ちよつと、よろしくて?」

あーあー、聞こえてない聞こえてない。なんか口調が変な人が話しかけてきたっぽいけど、きつと気のせいだーあーあーあー!

「な、なんですの、その反応は!」

肩を揺さぶつてきた。痛いです。つめ!つめが食いこんでますよ!?

めんどくさい上に痛いので目を上げると、白人らしい真つ白な肌を怒りに赤く染めている貴族っぽいオーラを漂わすドリル人間がいた。そう、ドリルだ。しかも二つも!こんな人間、アニメの中だけ……あーこつて小説の中だっけ?まあ、ここが現実なんだから思ってもいいだろう。無視、するーの選択で間違いはないだろう。そのまま、視線を机に向ける。ママは学校で学べたっていったらしいけど、今学校に来てできることと言えば、一人椅子取りゲーム(要は着席)ぐらいだ。

「なんで泣くんなんですの!」

ドリルの目が恐いからです。自覚ないんでしょうけど、あなたの目の凶悪さとドリルの破壊力は測り知れないんですよ?

「そのへんでやめてやれよ」

「なんですの!今はわたくしが話しているのですのよ!」

!?二つ前の席の変態が近づいてきました。最悪です。……助かりましたが。

そのあといろいろドルルと変態が話していたんですがよくわからないうちに……

「極東の島国というのは、こうまで未開の地なのかしら。大体、文化としても後進的な国で暮らさなくてはいけないこと自体、わたくしにとつては耐えがたい苦痛で……(ry)」
なにか私関係ない？よくわからない話になってますし。

「イギリスだつて大してお国自慢ないだろ！世界一まずい料理では何年覇者なんだ?!」

勿論、変態も黙つては居ないかつた。……私の近くでそんなに怒鳴らないでくれませんか？うっさいです。それにイギリスにもおいしいものはたくさんありますよ？そして、まずい料理があるという点では日本も変わりませんよ？ただイギリスの方が多いだけで。それに私はカレーが嫌いですから、全国共通でカレーを出されたら嫌がりますよ？……関係ない話になってましたね。

そこからは、ずっと売り言葉に買い言葉。いい年して、なに口喧嘩なんかしてるんですか。ホントに子供ですね。

《キーンコーンカーンコーン》 ここで、三時間目開始のチャイムが鳴った。

「つ………！ またあとで来ますわ！ 逃げないことね！ よくつて!」

次は、こつちには来ないで変態の席の方に行ってください。

最初の授業とは違って、年増が教壇に立っている。だけど……

「それではこの時間は実践で使用する各種装備の特性について説明する」

「じゃあ、保健室でゲームでもしていいですか？」

「ほう、教師の目の前でサボリ宣言か！もちろん、却下だ！馬鹿もの！」

バシッ！

はう、痛いです。年増はもうすこし手加減を覚えた方がいいですよ？

「ああ、その前に再来週行われるクラス対抗戦に出る代表者を決めないといけないな」

「クラス代表者とはそのままの意味だ。対抗戦だけではなく、生徒会の開く会議や委員会への出席……まあ、クラス長だな。ちなみにクラス対抗戦は、入学時点での各クラスの実力推移を測るものだ。今の時点ではたいした差はないが、競争は向上心を生む。一度決まると一年間変更はないからそのつもりで」

ざわざわと教室が騒がしくなる。うっさいですよ。この程度のことですわつくな！ですよ。クラス代表ですか。要するにめんどくさいことに巻き込まれる、そういうことです。では、私は関係ないので流しときましよう。私は帰るんですから。

「はいっ。織斑くんを推薦します！」

「私もそれがいいと思います！」

「では候補者は織斑一夏……他にはいないか？ 自薦他薦は問わないぞ」

「お、俺?」

変態が大きな声を出して立ち上がる。視界に入らないでください。目が腐ります。

「織斑、席に着け、邪魔だ。さて、他にはいないのか? いないなら無投票当選だぞ」

「私は樹里ちゃんを推薦しまーす♪」

「私も♪」

ちよ、まちやがれです。私はそんなのやりたくないですよ!?!…それにいま樹里『ちゃん』って言いませんでしたか?なんでそんなにフレンドリーなんですか!?やめてください。変態と同じ候補者とか死にたくなるじゃないですか!

「やです!やですから辞退します!!もし駄目だったら、退学でいいです!」

ここはちゃんと自分の言いたいことを主張しておいた方が賢明でしょう。

「却下だ!篠ノ乃娘!自薦他薦は問わないと言っただろう?」

「ちよつと待つてください! 納得がいきませんわ!」

ドリルが机をたたき立ち上がりやがりました。掘削機の名は伊達じゃないようです。ごい音をだしやがりました。それにしても迷惑です。…いや、そのままクラス代表になつてもらいたい。でも、ドリルが代表つていうのもどうなのでしょうか?

「そのような選出は認められません! 大体、男や子供がクラス代表だなんていい恥さらしですわ! わたくしに、このセシリア・オルコットにそのような屈辱を一年間味わ

えとおつしやるのですか!」

は?子供?関係ないよね?屈辱?勝手に味わっていてください。……でも、クラス代表はお断りです。そして、ドリルが代表者になっても恥だと思うのです。

「実力から行けばわたくしがクラス代表になるのは必然。それを、物珍しいからという理由で極東の猿や、その猿が推薦する凡人にされては困ります! わたくしはこのような島国までIS技術の修練に来ているのであつて、サーカスをする気は毛頭ございませんわ!」

……は?『実力から行けば』?ないわ。それは、ない。私に勝てるつもりですか?「決闘ですわ!」

「おう。いいぜ。四の五の言うよりわかりやすい」

「言つておきますけど、わざと負けたりしたら私の小間使い……いえ、奴隷にしますわよ」

ほう、ドリルも変態さんだったんですね。奴隷とか。何をさせるつもりなんでしょう?いや、それよりも奴隷にさせるっていう考えがでることは本国、イギリスのほうではドリル用の奴隷でもいたのでしょうか?いたんでしょね。女王様とかやつてさうですよ?関わりたくない分野の人間ですね。それよりもたしかこのドリル、変態のことを好きになりますね?SとMは裏表とも言いますし好きになつてMになるんで

しょうか？それを考えたら、変態とドリル、お似合いだと思いますよ？……なんで、私の周りには変態（ママは除く）しか集まらないのでしょうか？

「ハンデはどのくらいつける？」

「あら、早速お願いかしら？」

「いや、俺がどのくらいハンデつけたらいいのかなーと」

と、変態がここまで言うとう耳をすましていただろうクラス中からドツと爆笑が巻き起こる。……なにになに？、男が勝てるわけがない？意味のわからない理屈ですね。たしかにISに乗った女性と何も持たない男が戦ったら女性が勝つでしょうが、二人ともISに乗れるんですよ？でも、代表候補生であるドリルを相手につい最近ISを動かしたばかりの『ド』がつく素人、しかもさっきの授業でも分かるように基礎の基礎の基礎という名の常識さえも分かっていない変態がハンデをつけるとか……自殺行為ですね。ドリルにハンデを付けてもらうが正解です。そして、ドリルに奴隷にしてもらう方がいいですよ？

「じゃあ、ハンデはいい」

当たり前です。何を考えてるんでしょう？……いや、なにも考えてないでノリで言ったんでしょうね。帰りたい……。

「ええ、そうでしょうそうですね。むしろ、わたくしがハンデを付けなくていいのか迷

うくらいですわ。ふふつ、男が女よりも強いだなんて、日本の男子はジョークセンスがあるのね」

あの、だからあなたは何言ってるんですか？その前提が間違ってるんですよ？日本の男子にジョークセンスなんてものはないですし、基本アホばつかです。まあ、ハンデに關しては同意ですが。

「さて、話はまとまったな。それでは勝負は一週間後の月曜。第三アリーナで行う。最初は織斑とオルコットで戦い、勝った方が篠ノ乃娘と戦う。織斑とオルコットと篠ノ乃娘はそれぞれ用意をしておくように。」

あれ？話いつの間にかまとまったんですか？それに私もいつのまに戦うことになってるんですか？まあ、そこについてはドリルが「私最強」宣言をしてくさりやがったので、ぶち倒しましょう。ドリルと変態では、実力的にドリルが勝つでしょうし。しかし、準備といつてもなにもしなくていいんですか？あと……

「勝ったら退学にしてください♪」

「だから却下だ！篠ノ乃娘、しつこいぞ！」

ガンツツツ!!!

角……角ですか。痛いです。なんで私だけ、角なんですか。お願いしただけなのに、最悪です。年増のくせに。年増のくせに!!それだから結婚できないんですよ!!

ガンツツツ!!!

「余計な御世話だ、馬鹿もの！」

……だから、だからなんで心を読めるんですか!? 最悪です。

「それでは授業を始める」

頭がズキズキするう……

……ここからまた、知っていることを解説されるといふ無駄な時間を過ごした。

帰りたい。

ワタシノカンガエタサイキョウノアイエス①

名称；[竜宮之姫（オトヒメ）]

操縦者 篠ノ之樹里

製作者 篠ノ之樹里

世代 第？世代

待機状態 服（ゴシック・ロリータ（GOSICKのヴィクトリカが着ていた物をイメージしてもらいたい）；色は白一色）ようは、白ゴス。

カラー；白

コンセプト；動きたくないんで勝手に倒れてください。アンチIS型IS。対多戦用。

AIの名前；ひめちゃん

追記；ISのコアを機体に2個、『天罰術式』に1個使用している。

通常のISのエネルギーが600だとするとこの機体のエネルギーは6000000。

またエネルギーは時間とともに回復するので実質無限。

基本武装

近接ブレード【舞姫】

・扇子型ブレード。エネルギー反射装甲になっているのでエネルギー系の武器はこれで跳ね返すことが可能。

特殊武装

シールドビット【戦わざる者】（10000機）

・その名の通り、シールドビットが10000機。実弾、エネルギー弾全て防ぐことができる。

・防ぐだけでなく、跳ね返すことも可能。

・またエネルギー弾に関しては吸収しエネルギーに変換することが可能。

・【ブルーティアーズ】のビット兵器を大きく上回る機動力を持つ。

Q；操作できるのか？

A；一応天才なのである程度の制御は可能ですが、ほとんどAIに任せてます。

浮遊機雷【動かざる者】（10000機）

・空中に配置すると光学迷彩で空間に溶け込み、普通のハイパーセンサーでは感知し辛い

自律行動をしており、無音移動をしながらISを探し突撃してゆく。

Q ; 運動神経ないのにこんなの装備して大丈夫？

A ; 大丈夫！動く気ない♪

常時展開型特殊システム；『天罰術式』

・この機体に対し、相手のIS操縦者が悪意や敵意を抱いた場合、距離・場所を問わずそのISの機能を低下・シールドエネルギーの減少、あるいは停止させる。（コアの再起動には篠ノ之束あるいは篠ノ之樹里の許可が必要になる。）

・一度姿を認識しさえしてしまえば、時間が経過してから思い返して敵意を向けてしまった場合でも影響下に入る。

・ISのコアに直接働きかけるので、防ぐことはほぼ不可能。発動にISのエネルギーは必要としない。

・ただしこのシステムはこの機体を完全解放時のみ有効。（シールドビットのみの部分解放だと発動しない。）

単一仕様能力（ワンオフ）；『一方通行』

・〈向き（ベクトル）〉を操る能力。

・運動量・熱量・光・電気量 e t c といったあらゆるベクトルをIS自体あるいはビッ

トに触れただけで感知・変換する能力。

・普段は「反射」に設定されていて、機体を狙った攻撃は全て方向を変えられ、反射される。

・大気に触れる事で風全体を操作しM7クラスの暴風を発生させたり、空気を圧縮し原子を強引に分解させプラズマを作り出し、地球の自転エネルギーを一部吸収して強烈な破壊力の攻撃に変換するなど可能。

ワタシノカンガエタサイキョウノアイエス②

名称；〔後藤（ごっちゃん）〕

操縦者 篠ノ之樹里

製作者 篠ノ之樹里

世代 第二世代

待機状態 ハリセン

カラー；白

コンセプト；お遊び用IS。他のISを製作するなかで出来上がったくだらないものを詰め込んでしまった作品。自分用のISの中で唯一の第二世代型。ただし、拡張領域が通常の第二世代（ラファール・リヴァイブとする）の50倍程度ある。

基本武装

ブレード【雅】

・Angel Beats!の天使が作り出すハンドソニック的なもの。

搭載兵装

近接ブレード【ネギ】

・ネギ型のブレード。ただ、ネギの形をしているだけでなく、相手を切る、あるいは掠る、罅迫り合いになるといった状況において先端の緑色の部分からネギの成分が噴出される。またこの成分はISのシールドを通過するので、目に染みる。

近接ブレード【釘バット】

・ただの釘バット。イメージのなかの不良とかがもってそうなのをそのまま大きくした物。見た目は凶暴だが、所詮釘バットなのでISのブレード等には勝てない。攻撃力的には【ネギ】に劣る。

近接ブレード【ハリセン】

・オリハルコンと言われる金属でできている。ごっちゃん最強の武装。

近接ブレード【アーマーシユナイダー】

・刀身にビームエネルギーを宿すことが出来、ISのシールドエネルギーを貫くことも可能。

・ぶつちやけ変態のISの零式白夜と同じ。（展開装甲かそうでないかの差。）

電磁ワイヤーウィップ【愛の鞭】

・一万ボルトの電流が流れる電磁鞭。

モーニングスター【パンプキンシザーズ】

・ モーニングスターはモーニングスターだよ。

火炎放射器【モンブラン】

・ 説明といっても普通の火炎放射器。ただしIS用ではなく一般的な物。

超高精度カスタムスナイパーライフル【サジタリアス】

・ 遠距離からの狙撃のみを目的として改造されている。

設置式罠【バナナの皮】

・ バナナの皮をそのまま大きくしたもの。

・ ただし、ただのバナナの皮と侮つてはいけない！これを踏み転んでしまうと、機体の武装が10秒間全てロックされ出せなくなる。

・ また、踏んだら必ずこける不思議仕様。

設置式罠【まきびし】

・ 忍者がよくまくあれである。ただし、ISに効果があるかは不明。

対空武装【空き缶】

・ ただの空き缶。拡張領域を大きくし過ぎて何か入れるものはないか悩んだ結果、ゴミ捨てを忘れていた大量のあきかんをつつこんでみた。

対空武装【腐った卵】

・ 装備した当初はちゃんとした生玉子だったのだが装備したままだったので腐った。

理由としては、買ったその日はすき焼きにするつもりだったのだが東がめずらしく料理をしてくれたため嬉しきで忘れていた。

Q；卵は量子変換できるのですか？

A；篠ノ之の技術は世界一！

特殊諜報活動用シールド【ダンボール】

・この I S を囲えるほどの大きさになっている。

《Q；なんでダンボールなんですか？ A；わからないけど、この箱を見ていたら無性に被りたくなつたんだ。いや、被らなければならぬという使命感を感じたと言う方が正しいかもしれない。》

《Q；使命感？ A；ああ。こうして被つてみると、これが妙に落ち着くんだよ。うまく言い表せないけど、いるべきところにいる安心感とか人間はこうあるべきだとう確信に満ちた安らぎのようなものを感じるのだよ？》

・またこの武装だけをだすことも可能で、その時はもちろん人用。樹里一人分だけではなくほかの人の分の段ボールをだすことも可能である。

・ああ、癒される。

特殊諜報活動用シールド【ロッカー】

- ・ ロッカーは諜報活動における必需品である。
- ・ 古来より多くのスパイがロッカーを活用し任務を成功に導いてきたとされている。
- ・ これもまた、段ボールと同じように人用として出すことが可能。樹里一人分だけでなく複数人分出すことが可能。

特殊武装

- 【割りばし】；コンビニで貰える割りばし。10膳装備してある。
- 【スプーン】；コンビニで貰えるプラスチック製のスプーン。3個装備してある。
- 【紙コップ】；コンビニで買った紙コップ。30個入り。
- 【小麦粉】；500g×100。
- 【マッチ】；5箱。
- 【IS学園で一般生徒に配布される教科書類。1人分】；束がここに入れておいたのを言い忘れていただけ。

第五話 The underwear a girl

wears is said to influence
 the outcome of her love.

放課後（・・・）

どうすればいいのかわからなかったの、そのまま机でぐだーつとしていた。持ち物をほとんどなにも持たずにといか持ち物すべてISの待機状態という変な状態で、しかも全部は持ってきていない。住む場所もお金もなにも持ってない。どうしろというのだ（・・・）しかも、教室の中で変態と二人つきりな最悪な状況。しかも、さつきからチラチラこつちをみてるし。（・・・）視姦とか、やめてください。

「ああ、織斑くん、樹里ちゃん。まだ教室にいたんですね。よかったです」

眼鏡が書類を片手に安心したような顔で言ってきた。なんでそんなにあわてるんだろ？（・・・）変態、なんで胸を凝視してるんですか？というか、胸しか見てないで

すよね。変態というかもう、ペドって呼んだ方がいいですか？

「えつとですね、寮の部屋が決まりました」

「俺の部屋、決まってるじゃないやなかったですか？前に聞いた話だと、一週間は自宅から通学してもらうって話でしたけど」

「そうなんですけど、事情が事情なので一時的な処理として部屋割りを無理矢理変更したらいいです……樹里ちゃんもです。」

まあ、あの変態に関しては今頃自宅にはいろんな人が行ってるんでしようね。変態といつても一応男で唯一ISを動かせる男人間なんだし。あと、ちゃん付けはやめてくれませんか？

「あの、ママのそこには帰れないの？」ぐすんっ

「え!?あーそれはですねその……夏休みとか長い休みもありますし、その時にまた織班先生に聞いてみてはどうでしょう？ね？樹里ちゃん？あとは、電話とかしてみたらどうでしょう？」

たぶん、むりでしょうね。卒業するまで……あれ？そういえば、赤椿渡す時に会えないかな？会えたらいいな、会えなかつたらたぶん、ママ成分不足で死にますね。

「じゃじゃあ、織班くんは1025号室。樹里ちゃんは1024号室です♪樹里ちゃんは一人居るんですが、なにかこまったことがあつたら気兼ねなく言ってくださいね？」

困ったこと……ママに会えなくて困っています。助けてください。

私は自分に割り当てられた1024号室の鍵を開けて中に入る。そして、この部屋まですごく長かったです。思うにこの学園って広すぎると思うんですよ？すごく疲れました。まあ、途中からISの部分使用をしてみました。運良く同室のものがいない一人部屋を手に入れ、私はなかなかの上機嫌だった。まあ、これでママがいたら完璧なんです。無理やり学園に入れられたのにいろいろと有り過ぎです。

あれ？なぜか荷物が……ママ！荷物を持ってきてくれるくらいなら一緒に来て下さいよ!!!……あれ？【黒鬼】が入ってませんか？あれ？まあいいですけど。

荷物をいろんなところに……置くほどないんでベッドの横に置いときます。あれ？この部屋一人部屋なのになんでベッド二つあるんですか？まあ、あれですね！ママが来たときのためですね♪

ズドンッ!!!

隣の1025号室の方、つまりは変態と殺人鬼の部屋から騒がしい声と何かの破壊音が届いてくる。まあ、ここは触れない方がいいでしょう。ここは触れない方がいいでしょう。大切なことなので二度考えました。もし、扉を開けてもすればこの部屋に入り

こんで来るでしょう。まあ、念のために鍵w「すまん、樹里さん。お願いします。匿ってください。まずいことになりそうなので。頼みます。頼むホントに！」

この変態、私の部屋にাগりこんできやがりました。押し返そうにも、所詮体力は幼女、この変態の腕力に勝てるわけもなく、とうか触りたくないんで入りこまれてしまった。なんですか？ どんだけペドなんですか？ いきなり女の子部屋に侵入するなんて、どんな鬼畜ですか？

「か……かえつてよお」ぐすんっ

これで大丈夫！ 『小さな女の子の涙は最強です！』説は確実です！ 自分で言つて悲しくなりますけど。『かわいいは正義！』です。嘘泣きですが。

「あ、えつとお。すまん！ すこしだけ！ すこしだけでいいからっ！」

その言い方はなにか、卑猥です。やめてください、私にふれないでください。同じ空気を吸わないでください。けがらわしい。ほんとに泣きそうです。

「そこまで、嫌そうな顔をしなくても……」

この変態、なに当たり前みたいな顔してるんですか。こつちみないでください。そして、そのままどこかに行つててください。その前にここから出て行つててください。

カチリ

!?! この変態、鍵を閉めやがりました!! え………なんで笑顔で近づいてくるんですか!?!

や、やめてください!!ちよ、まてて「ひさしぶりだな!樹理!」は?

「いや、懐かしいな!5年ぶりか?」

いやいやいや、5年ぶりですがなんでそんなにやにやとにやけ顔で近付いてくるんですか!ちよ、もう壁にぶつかりましたよ!ちよ、まっってください!

「ほんとに変わってないな」

いや、余計なお世話です!だからこつちこないでくださいって!

「ん?どうした?そんなに震えて、風邪でも引いたのか?」

ちよっ!?震えてるのはあなたに襲われてるからであつて風邪じゃないですつてば!!それに風邪ひいてる女の子を襲うつてホントにペドすぎますよ!?そして、顔近付けて何するつもりですか!?やめ、やめてー!!……ん?でこ……いや、それも嫌ですよ?熱測るつてやめてくださいって、ホントに。少し安心しましたが。そういえばこの変態は無意識にセクハラするんですね。でも、鼻息あらいで恐いです。

「……熱はないようだな。ん?顔も赤くなつてみたいだし、早く寝ろよ?」

だくかくらく!はやくでてい(コンコン……)だれかが来たみたいだ!助かった♪

ドゴンツ!

は?なんでいきなり?ドアこわされた……

そこには鬼の顔(注;鬼のような顔ではない)をした殺人鬼が木刀を片手にこちらを

睨めつけていた。

「一夏！なにをしている!?」

お前が何をしている！ですよ。なんで木刀なんてもつてるんですか!? たしかにこの変態に襲われるということは避けれそうですが、なにドア壊しやがってるんですか!? まあ、木刀で壊れる扉だったっていうのが少しショックですが。ちゃんと弁償してもらえますよね?

……ママが払いそうですが。

「箒!? 樹里! 助けてくれ!」

いやですよ! ちよ、なんで抱きついてくるんですか!? そして私の後ろに隠れるんですか!?

「そこをどけ! 一夏! さっさと戻ってこい!!」

はい! どきます! どきますんでさっさと警察に銃刀法違反で捕まら……この変態を連れて行きやがれです! そして、変態は何処触つてやがんですか! ちよつ、そこ胸! 胸にすこし触つてやがります! そして顔がお尻にちよつ、やめなさいつてば! だから殺人鬼は! 木刀振り回すんです! なんで私に……ちよ、ああ……

と、まあ気が付いたらベツトの上時刻は朝の8時
ただ、頭痛がしたので大体のことは把握できた。

早くママのところに帰りたいです。